

高梁市 議会 だより

第25号
2016年3月



特集

12月定例会開催

第6回議会報告会を
開催しました

一般質問(こ)が聞きたい!

委員会報告

岡山県立高梁城南高等学校デザイン科2年 野村菜々子さん作品(転載禁止)

13 6 2

Uchisange
内山下

第6回議会報告会を開催しました！

平成27年11月2日・4日・5日の3日間にわたって、高梁市内の8会場で「第6回議会報告会」を開催しました。9月議会で審議された決算について報告し、「地域のまちづくりを語ろう」というテーマで意見交換会を行いました。

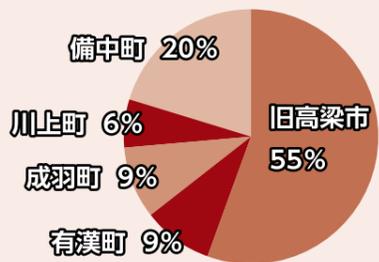


高山会場

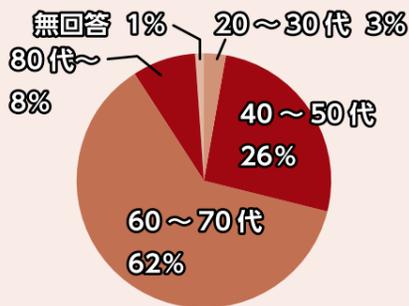


湯野会場

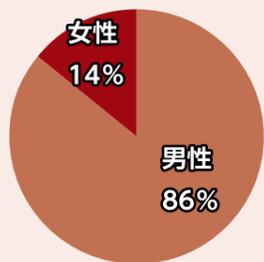
地域



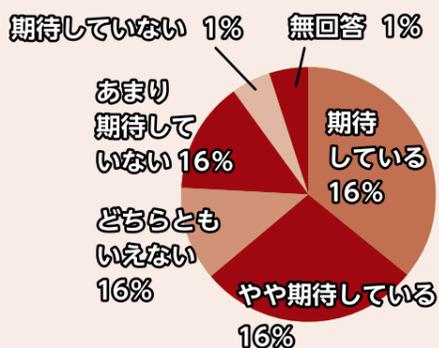
年齢



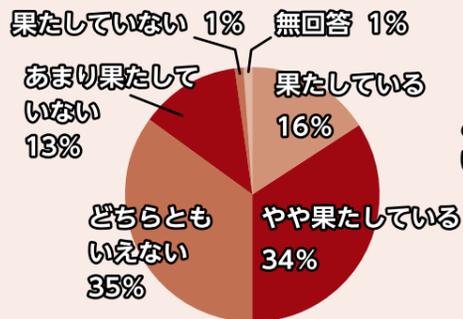
性別



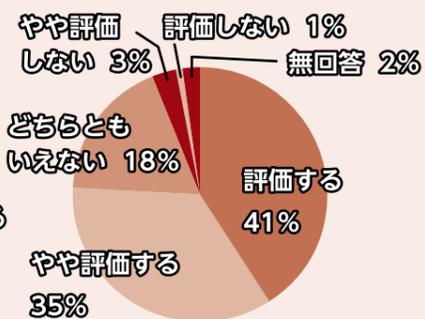
議会への期待



議会の役割



議会報告会を開催したこと



議会改革の一環として開かれた議会を目指して開催

議会報告会は、議会改革の一環として平成25年4月に始まりました。その後も、予算を審議する3月議会、決算を審議する9月議会に合わせて年2回のペースで開催されています。当初は、議決された政策の内容だけを報告していましたが、回を重ねるごとに、地域の問題を把握するための意見交換会に比重が置かれるようになっていきます。

会場も、当初は地域局単位の5会場でした。その後、さまざまな地域の人に参加してもらうために、現在は中学校の校区単位で8会場での開催にしています。

第6回の議会報告会は、11月2日から5日まで、高梁、津川、川面、落合、有漢、成羽、備中、川上の8会場で開催されました。参加人数は延べ209人。86%が男性で、年齢構成では60代から70代が62%と最多になっています。次に多いのが40代から50代の26%で、女性や若年層の参加が少ないことは課題となっています。エリアごとの参加者数を比較すると、4会場で開催されている旧高梁エリアが55%と人的には一番多く、備中町が20%、有漢町と成羽町が9%、川上町が6%となっています。旧高梁市エリアの参加者は「川面会場」や「津川会場」など周辺部に多く、市街地では少ないという傾向が続いています。

地方創生に求められる自治力は計画を提案し、実行できる力

国は現在「まち・ひと・しごと創生法」による地域創生を進めています。この政策がこれまでと違うのは、国から補助金をもらうためには、地方創生のアイデアを自分たちで考え、提案し、実行し、結果を出さなければならないという点です。そのためには、自分たちの地域の魅力や問題点をしっかりと認識する必要があります。

議会は執行部の政策を精査し、住民の皆さんの意見をしっかりと市政に反映させていかねばなりません。住民の皆さんも正しい情報を知り、市政に積極的に参画していただきたいと考えています。

議会活性化特別委員会では、より多くの方に参加していただくために、常に会場選びや報告会の議事進行について話し合い、変更を加えています。報告会では毎回アンケートを取っています。議会報告会を開催したことについては「評価する」に「やや評価する」を合わせた76%が評価するとしています。しかし議会の情報公開については、「開かれている」に「やや開かれている」を足した数字が50%で、約半数であり、開催は評価している人が少なからずいるということがわかります。

アンケートの声を参考に今後もよりよい運営を目指します

今回の報告会で寄せられた意見には「大変よいことだが出席者が少ない」、「多くの市民に参加してもらおうように、PRの方法を考えて欲しい」、「もっと若い世代が関心を持って参加しやすい会になる」とよい、「報告会が出た意見、要望が、その後議会市政にどのよう反映されたのかを明確にして欲しい」といったものがありました。

市民の方から寄せられた意見や提言は、市長へ送るとともに、政策の参考にさせていただいております。過去の議会報告会の記録や、寄せられた意見・提言は高梁市議会のHPから見ることができ、ぜひご覧になってください。

※1 建設費から、水光熱費、点検・保守・清掃費などの運用維持管理費用、修繕・更新費用、解体処分費や税金・保険費用までの費用のこと
※2 行政の決算は通常単式簿記の現金主義で行われる
※3 計画(Plan)→実行(Do)→評価(Check)→改善(Action)の4段階を繰り返すことによって業務を継続的に改善する手法

Q. 介護保険制度改正により、高齢者が十分なサービスを受けることができないのではないか

A. 必要とされる方はこれまでどおり専門のサービスを受けることができる



ここを聞きました

- 介護保険制度改正への対応について
- 就学前児童の保育、教育について
- 学校統合について
- 市民提案について

■介護保険制度改正について

石田 地域住民のボランティアで介護予防の支援が可能か。

市長 住民の技や経験を生かしてもらいたい。地域の取り組みを促すようなメニューを考えていく。

■就学前児童の保育・教育について

石田 施設間で利用者に偏りがあるのではないかと。

健康福祉部長 人数の差はあるが交流活動を行っている。利用調整について強制はできないので個別にお話ししていきたい。

■学校統合について

石田 学校統合はどのように進めているのか。

教育長 児童生徒の能力を最大限伸ばすことを念頭に、歴史や実情、保護者や地域の意見を伺いながら

教育委員会が主導性を発揮して進めていく。本年5月より説明会を開催しており、統合については学校単位でまとまって合意をいただきたい。

■市民提案について

石田 葉草栽培、ウエディングプランニング、廃校活用に関する市民提案への対応は。

副市長 葉草栽培については総合的支援策を考えている。

市長 ウエディングプランニングは婚活だけではなく起業にもつながる。不足しているものがあれば考えさせていたたく。

健康福祉部長 廃校活用については、障害者福祉、雇用、遊休資産活用に資するもので、精査して進めていきたい。

Q. 地方創生とは、新図書館、駅前複合施設などの中心市街地のにぎわいと旧4町などの周辺部のまちづくりとセットで考えていくことではないのか

A. 周辺地域に小さな拠点を整備し、中心部のにぎわいに連携させていく



ここを聞きました

- 高梁市の急激な人口減少、超高齢化社会を迎え縮小する社会に対応したまちづくりとそれに向けた社会資本整備について
- 高梁市の公共施設における建設、運営、管理の考え方と新図書館を核にした駅前複合施設の意義及びその持続可能性、健全性について

■高梁市の人口減少経済、縮小社会に対応したまちづくりと公共施設のリサイクルコストについて

大森 縮小社会において、インフラ整備の見直し、ダウンサイジングは不可避。駅前複合施設、新市庁舎などのインフラについて、ライフサイクルコストをどのようにとらえて建設しているのか。

市長 これまではそのコストは正直考えてこなかったと思う。その結果、維持管理費、統廃合などの問題が今になって出てきている。それを教訓にこれからはしっかり考えていく。

大森 それには、公会計制度(複式簿記)を導入し、市職員の人件費等を含めたフルコスト、ストック情報を活用した政策、P D C Aサイクルの確立が重要である。

■地方創生の理念と新図書館を核にした駅前複合施設の意義、及びその持続性と健全性について

大森 CCCの指定管理ありきで駅前複合施設建設が進められている。旧「ゆ・ら」で指定管理者制度の問題を学んだはずだ。このような地方創生の理念と、これまでの市政と真逆のような進め方、抽象的なにぎわいの創出では賛成できない。それには地元の資本、人材、大学を活用した、特に若い人を巻き込んだ具体的な政策の展開が必要。同時に周辺地域、農村部の活性化、所得の向上をセットにした地域でお金と人材を好循環させる政策が、稼げるまちの実現が地方創生で求められるのではないか。

市長 経済を伴った、持てる資産を活用した計画を進めていく。

Q. 新図書館の管理運営をCCCに委託することは問題が多いのではないかと

A. CCCを指定管理予定者として進めていく



ここを聞きました

- 新図書館の問題について

■日本中でCCCの図書館の指定管理について問題が起きているのか

妹尾 市はどのように対応するのか、再考すべきときではないのか。

■時間をかけて対応する問題ではないかと

教育次長 時間をかけて対応するので問題は起きないと考えている。

妹尾 新図書館を駅前建設すること問題だが、図書館を核とした複合施設がいつの間にか、「にぎわいの拠点」が中心となっていない。駅周辺だけがにぎわっても市全体の活性化にはつながらない。

また、CCCの指定管理料、年間1億6000万円(市民一人当たりの負担約5000円)という行政の進め方はバランスを欠いているのではないかと。

教育次長 多くの人が図書に触れたいという思いにも、人がより多く集まる所が良いと考えている。

■複合施設(図書館)の建設からCCCへの指定管理等の進め方を見てみると「高梁らしい図書館のあり方、運営のあり方」の本質的な議論をしていない。なし崩しの既成事実の積み重ねだけの行政の進め方に問題がある。3月議会には予算や指定管理の議案を提案されるようだが、市民・議会への説明は十分されるのか。

教育次長 議会に提案するまでには説明と議論の場を設けたい。

妹尾 CCCへ支払われる年間1億6000万円は市民サービス(インフラ整備、補助金等)に使われるお金と同じであり、市民サービス低下につながる。市全体を考えた使い方にはすべきである。

教育次長 指定管理料は市税、地方交付税から支払われる。

Q. 要支援者の対応は進んでいるのか

A. 地区社協に協議体を設置できるように調整している



ここを聞きました

- 新図書館について
- 介護保険サービスについて
- 学童保育について
- 高梁市まち・ひと・しごと総合戦略について

■介護保険制度が改正され要支援認定者は、全国一律の介護予防サービスから市町村が運営主体の地域支援事業に移行されることになった。この対象者は何人か。

健康福祉部長 現在、要支援1の方が438人、要支援2の方は327人の計765人。このうち通所介護が197人、訪問介護は150人が受けている。

宮田 通所介護と訪問介護の対象者は、平成29年度から市が運営主体となる総合事業に移行されることになるが、準備は進んでいるのか。

健康福祉部長 専門的なサービスが必要な方は市が指定した事業所で受けていただく。他の方は介護予防事業や地域の福祉サービスな

どを活用していく。住民主体で介護予防を進めることも重要なので、市内14地区にある地区社協に協議体を設置できるように調整している。

■新しい介護予防は、必要性に応じて必要なものを行うことになる。サービスを受ける側に不満が生じぬよう、しっかり説明していく必要があるのではないかと。

健康福祉部長 今は65歳以上の方が1人を1.53人で支えているが、2040年には1.07人で支えることになる。受ける側も提供する側も協力して、活動を進めていかなければ制度自体が成り立っていないと考える。制度改正の説明は十分させていただきたい。

健康福祉部長 今後は65歳以上の方が1人を1.53人で支えているが、2040年には1.07人で支えることになる。受ける側も提供する側も協力して、活動を進めていかなければ制度自体が成り立っていないと考える。制度改正の説明は十分させていただきたい。

Q. 定住対策として農地つき団地50戸を建設してはどうか

A. 現在の宅地整備に加え、空き家対策を進める



ここを聞きました

- 少子化対策について
- 「高梁市まち・ひと・しごと総合戦略」について
- 検診受診行動アンケートについて

■ 少子化対策について

三村 「日本創成会議」が高梁市の消滅可能性について報じている。その対策として農地つき団地を50戸建設し、20年以上住んだ場合無償提供してはどうか。

政策監 現在までに27団地333区画の分譲宅地整備を行っている。これに加え、就農や移住希望者のための空き家対策を進めたい。

「高梁市まち・ひと・しごと総合戦略」について

三村 半官半Xとは何をイメージしているのか。

市長 半分公務員の仕事をし、半分を農業・林業、その他自営を行うイメージである。地方公務員法には抵触するが、法をクリアすべくチャレンジしていきたい。

三村 吉備国際大学の充実発展は

地域経済対策の柱である。そのためには魅力・特徴ある大学が必要と考えるが市と大学との連携はどうか。

市長 「知の拠点整備」による連携や、保健福祉などの特色ある分野を情報発信していきたい。

■ 検診受診行動アンケート調査について

三村 検診受診行動アンケート調査で未回答者への対応はどうか。把握を行っている他市の事例もあるが。

健康福祉部長 20歳以上の全ての市民2万6000人を対象に無記名で実施した。回答者数は1万8280人で回答率は70%である。広報紙等を活用して受診奨励を行っている。

Q. 消火栓用設備の更新については、全額市負担とすべきではないか

A. 要望を踏まえ検討し、予算化したい



ここを聞きました

- 災害時の情報伝達手段について
- 消火栓用設備について
- 駅周辺整備について

■ 災害時の情報伝達手段について

内田 緊急時の情報伝達については複数の手段を活用している。本年度の防災ラジオの研究状況と成果について問う。

総務部長 情報伝達手段については、ケーブルテレビを主体として、各種手段を活用している。防災行政無線も老朽化が著しく本年度から、防災ラジオの研究を進めている。現在、難聴地域の調査を完了し、運用面での検討をしている。

■ 駅周辺整備について

内田 JR備中高梁駅周辺では、機能面での整備が進んでいる。駅前広場に歴史文化・憩いの空間としてオブジェ等を設置してはどうか。

市長 広場には植栽をするほか、山田方谷の銅像を市民の浄財でつくろうという話をいただいている。関係者と相談しながら進めたい。

Q. 図書館を自分ごとにする組織づくりを

A. 自分たちの図書館だという意識づくりは重要



ここを聞きました

- 図書館の運営について
- 市営住宅について
- 定住対策について
- 企業誘致について
- 観光振興について

■ 図書館への市民参加のために友の会や選書カフェを

石井 図書館への参加を促すために、図書館ボランティアや、図書館に興味のある方などをまとめた友の会を組織してはどうか。また、選書カフェを開催して、自由参加で自分の読みたい本や人に薦めた本を上げ、選書の参考にしたいはどうか。

教育次長 自分たちの図書館という意識を持っていただくことは重要だ。選書のイメージはCCCがリストをつくり、司書や教育委員会が基準に基づいて選書していく。カフェについてはニーズを把握する意味では重要なので、可能性としては検討してみたい。友の会については、利用者の方がそうした

組織をつくられることは市としてはありがたいと考える。

■ 人口減少時代にあった暮らし方への変換を

石井 人口減少社会で行政コストを削減していくためには、暮らし方を変えていく必要がある。コンパクトシティ化を進めるような助成をすべきではないか。

市民生活部長 市の中心地と小さな拠点、周辺の集落を結ぶネットワークを巡らせることがコミュニティの維持のために求められている。その妨げになる交通空白地帯の解消は、順次進めている。強制的に1カ所に誘引することには抵抗がある。これについては時期をにらみながら、協議を進めていく。

Q. 高梁市地域振興基金によるまちづくり

A. まちづくり協議会と協議しながら検討していく



ここを聞きました

- 高梁市地域振興基金によるまちづくりについて
- 地域公共交通について
- 成羽病院の運営について
- 旧成羽高等学校跡地の認定子ども園、養護老人ホームの計画について

黒川 地域振興基金によるまちづくり事業は、合併前から各地域が実施していた事業を継続して実施できるように設けられているが、地域の状況は非常に過疎化、高齢化、少子化が進み集落の維持さえも困難となってきたところがある。イベント中心の考え方から日々の生活に密着した（集落維持していくための）事業として活用できるように検討したらどうか。

市長 この事業については、合併時、合併特例債を基金として積み立てて運用してきたもので、10年間、各地域が行ってきた事業を尊重し配分してきたものである。先のまちづくり協議会連絡会でされたところである。制度的には、

ハード事業ではなくソフト事業として活用できるもので、今後は、まちづくり協議会と協議しながら柔軟に活用できる事業として検討していきたい。

黒川 「高梁市まち・ひと・しごと総合戦略」の中に具体的な施策として「利用しやすい効率的な公共交通機関の推進」がある。スクールバスと生活福祉バスとの混乗について、現在19路線のうち、5路線で実施されているが、今後の計画はどう拡充していくのか。

市民生活部長 本来スクールバスは、児童が安全で安心して通学できる環境を守るということが第一義と思う。今後、地域の実情に合わせて検討していく必要があると考える。

Q. 鳥獣被害対策実施隊の隊員に市職員及びJA職員を構成員として委嘱してはどうか

A. 強制的には難しいが、サル被害等の追い払いについては効果が大きいと認識している。今後検討したい



ここを聞きました

- 農地中間管理機構について
- 有害鳥獣対策について
- 農業への保護政策について

■ 鳥獣被害対策実施隊について
森田 高梁市の鳥獣被害対策実施隊については、昨年の9月に立ち上がり本年9月に再編された。再編にあたり大幅な隊員の減となったと聞くが、どのような協議経過があったのか。

産業経済部長 初年度においては市内全域での駆除活動となる中で危険性や隊員外の猟友会員との間で不公平感があつた。さらに事務処理の煩わしさから書類の未提出等があり、再編にあつては猟友会の方と協議した結果、今年は23名の実施隊員を委嘱させていただいている。

森田 この制度は、鳥獣被害の重大性を認識した中で国が補助要綱を示し、市町村が事業実施している。

その中で実施隊員の要件としては市町村長が任命するもので捕獲業務に携わる狩猟免許所持者(猟友会員)また被害防止施策に積極的に取り組むことが見込まれるもので市町村職員からも任命できるものについて。サルの追い払いや事務処理に対応できる市職員及びJA職員を構成員として委嘱してはどうか。

産業経済部長 市職員、JA職員共に減ってきている。個人的に当たって見ないとわからないが強制的に任命というのは難しい。反面サルの追い払いについては、実施隊の隊員が不在で出勤が困難な場合であっても市職員であるとか関係職員が出勤し活動することは効果的だと認識している。今後検討、協議させていただきたい。

Q. 「高梁市まち・ひと・しごと総合戦略」の重要課題は

A. 人口減少問題と考える



ここを聞きました

- 地方創生と高梁市まち・ひと・しごと総合戦略について

小林 日本の将来人口推計は2050年 1億人を割り込む2060年 約8600万人2100年 約4500万人になると言われている。

高梁市では人口ビジョンの通り2015年 約3万2000人2020年 約3万人2030年 約2万5000人2040年 約2万人となり、日本の人口が1億人を割り込む2050年には高梁市の総人口は、約1万6500人になると推測されている。こうした将来推計を踏まえ、「高梁市まち・ひと・しごと総合戦略」の中で取り組むべき重要課題は何か。

市長 最重要課題は、人口減少問題と考えている。いかに人口減少

に歯止めをかけるかということを中心に念頭に出生支援、子育て支援、定住対策、移住支援などに取り組んでいる。

小林 創生とは「創り出すこと、初めて生み出すこと、初めてつくること」という意味がある。いわゆる、従前と違うこと、かつ他地域と違うことを実施していかなければ新しいものは生まれない。その原点は人であると考えている。



高梁市まち・ひと・しごと総合戦略(案)

Q. 水道料金の引き上げに反対。安全な水を安定的に安価で提供を

A. 水の大切さは共通認識、慎重に検討し市民に喜んでいただきたい



ここを聞きました

- 歴史まちづくり重点区域空き家住宅等除却事業について
- 水道料金の引き上げについて
- 新図書館について

石部 「歴史まちづくり重点区域空き家住宅等除却事業」や空き家対策事業の適用範囲を、防犯や、隣家や道路への家屋倒壊を防ぐために広げたらどうか。

産業経済部長 周辺の町並みと比べ景観に問題があれば対象範囲については柔軟に研究したい。

石部 水道経営審議会での答申は苦渋の中でまとめられ、平成29年から基本料金10トンについて、上水道は1540円を2350円に、簡易水道は2050円を2450円に改定。5年後には2450円に料金統一を図るとある。水は市民の命を支える不可欠の基本的な資源で、ほぼ全市民が利用している。現在でも他市に比べて高い水道料金であるが、最低でも現状維持してほしい。

市長 市民にとって大切な水である。財源確保が必要で市長会などと国に働きかけをしている。このまま値上げをする気持ちはない。

石部 市民要望の中では、高梁市にふさわしい特色ある図書館とするためには、創業支援・子育て支援・移住支援 農業支援などを行い、ボランティアなど図書館運営に活動参加者をふやすべきという意見がある。市民参加を促し人材育成を目指すには直営とすべきではないか。

教育次長 これからは貸本屋としての図書館では立ち行かない。いろんな相談は図書館司書が行い専門家としてのレファレンス機能を充実させる。これらは民間企業への契約で担保することができると考える。

Q. 食の安全と農業を守るためのTPP大筋合意の批准をやめるよう求めよ

A. TPPは農業以外のこともあり総合的に判断された結果と考える



ここを聞きました

- 市民の食の安全と基幹産業である農業を守ることに
- 有害鳥獣農作物被害防止対策の拡充について
- 消防施設について

難波 TPP大筋合意は市民の食の安全と農業にどのような影響を及ぼすのか。農産物重要5品目の3割は完全に関税撤廃となる。コメは当面5万6000トンも無関税で輸入されることとなり、国会決議違反と考えられる。また輸入増加で低米価の主要因であるコメ過剰は解消されない。畜産、果物、野菜も価格下落が深刻化し、ブドウやトマトも例外ではない。食の安全についても添加物の認可数をふやしたり、遺伝子組み換え表示を無くし、残留農薬濃度の高い農産物を輸入するなど危険性が高くなる。市長は国に対してTPPの批准をやめるよう求めよ。

産業経済部長 コメは輸入枠が増加し価格が下がると懸念されるが国は備蓄米を買い上げるとしてお

り過剰米は考えられない。過剰米の原因は消費者のコメ離れの影響もあると考える。牛肉、豚肉、乳製品は、最終的には大幅な関税引き下げとなる。国は畜産農家経営安定対策をするとしている。本市のブドウ、トマトは卓越した技術により高品質であり十分国際競争に勝てる確信がある。遺伝子組み換え表示解除の報道もあるが、消費者は安全な国産品に目が向いていくと考える。

市長 農業の大切さは理解している。TPPには農業以外の分野もあり国がさまざまなことを総合的に判断された結果と考える。批准をやめよとは求めない。しかし、今後の対応にはしっかりともの申し出ていきたい。農業を守る対策も講じていきたい。

- Q. CCCからの提案書なぜ市民が知ることができないのか
- A. 市の条例に基づき対応している



ここを聞きました

- Uターンを促すための「ふるさと帰奨学金」制度の創設について
- 高梁市立図書館指定管理者業務要求水準書とCCCから提出されている高梁市新図書館提案書について
- 旧朝霧温泉「ゆ・ら・ら」の場外馬券場転用のための売却取りやめについて

■情報開示について
宮田 CCCからの提案書をチェックした委員会の議事録や、提案書自体の情報開示請求を行ったが開示されないのはなぜか。

教育次長 法の規定と市の条例のつとつて対応した。
宮田 図書館の運営管理について、市民は1億5000万円を真水で負担することになるかもしれない。その重要な判断材料となる行政文書をなぜ市民が知ることができないのか。

教育長 市の条例に基づき対応している。
市長 適正に示すべきものがあれば開示する。

■旧「ゆ・ら・ら」について
宮田 旧「ゆ・ら・ら」の対応策についてはゼロベースで考えるのか。

前回の市長答弁が分かりにくかったので再度確認する。
市長 「分かりにくい」とのことだが、何が分かりにくいのか理解できない。旧「ゆ・ら・ら」については手続きを踏んできた。選考委員会で売却先を決定し、議会の全会一致で売却の議決をいただいた。残念な結果として、宮田議員を筆頭とする、「売却に関する意見書」が出てきて、先方が撤退された。私は場外馬券場の収入を福祉に使うことを明言し市民理解を得るために説明会を開いた。逆に宮田議員の説明会は聞いたことがない。どこでどういう意見を聞かれたのかも全く分からない。そういう中で、「分からん」と言われても、私も分からない。終わったのだから。だからゼロベースだ。

陳情を真摯に受け止めるべき。
・第三者委員会のあり方をもう少し考える必要がある。
・検証するのなら建設当時から行う必要がある。
・趣旨が偏った内容にも受け取れ疑問を感じる。
・これまでの経緯・経過を次に生かしていくために議論することが必要。
などの意見が出され、採決で継続審査となりました。

委員会報告

総務文教委員会

「高梁市行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報等の提供に関する条例」「高梁市税条例等の一部を改正する条例」「平成27年度高梁市一般会計補正予算(第4号)」

・どの議案もマイナンバー制度が含まれている。この制度は国が国民を管理しやすくすることを目的とし、多額の税金が投入されている。セキュリティの問題もあることから反対する。
などの意見が出されましたが、採決で原案のとおり可決されました。

「朝霧温泉ゆ・ら・らの行政対応について第三者による検証実現の陳情書」

・この問題を前に進める意味から、

「安法制の廃止を求める陳情」

・安法制制のもと、自衛隊の海外派兵にもつながるので、採決すべき。
・国土や国民を守ることは国の責務と考える。陳情では、安法制は違憲としているが、市議会の見解として表明することには疑問を感じる。
などの意見が出され、採決で不採択となりました。

- Q. 川上景年先生の顕彰活動を
- A. インターネットも活用しながらピーアールに努める



ここを聞きました

- 川上景年記念館について
- 観光施設について
- 猫友会について
- こども園、保育園、幼稚園での看護師採用について

■川上景年記念館について
大月 川上景年先生の故郷に記念館を設立し大道書学院との交流が続いているが地域にピーアールが足りない。今後の考え方を問う。

教育次長 景年先生の顕彰活動として平成11年から25年まで15回、歴史美術館で作品展を開催している。今年は松山踊りの期間中、市役所一階ホールに記念館所蔵の作品を展示し、多くの方にご覧いただいた。

大月 景年先生の遺品が記念館にたくさんあるが、皆さんにお見せしたらどうか。
教育次長 記念館では来館者にできるだけ多くの作品を見ていただくため、年1回の展示替えをしている。常に新しい作品を目にしていた

だき、その都度展示の工夫をしている。今後も大道書学院や書道愛好団体、備中町書道文化交流推進協議会にもお願いし、インターネットも活用しながらピーアールに努める。
■保育園に看護師を採用しては
大月 子どもが傷病時の緊急呼び出しの際、看護師がいれば医療の手伝いができるのでは無いか。
健康福祉部長 保育中の体調不良の際は、緊急連絡で医療機関への受診をお願いしている。子育て中の働く方が、できる限り休みをとりにやすい社会環境の醸成が最も必要であり、「パパ・ママ・子育て応援事業」を一層推進し、子育てに理解のある企業をふやしていくことで、子育てをしやすいまちづくりを進めていく。

産業経済委員会

「水道料金引き上げに反対する陳情」
陳情の趣旨を踏まえて今後対応していくという意味で採択すべき。
・値上げについてはやむなしと考える。
・水道加入者の減少のなか、使用料は上げざるを得ない。
・上水道と簡易水道の統合に伴う料金改定には、審議会から答申が出され、市も慎重に検討すると表明しているの、採択までする必要がない。
などの意見が出され、採決で不採択となりました。

市民生活委員会

「高梁市国民健康保険税条例及び高梁市介護保険条例の一部を改正する条例」
「平成27年度高梁市一般会計補正予算(第4号)」
・マイナンバー制度は、個人情報の漏洩問題が払拭されていない。市民にほとんど利益のない制度であるので反対する。
などの意見が出されましたが、採決で原案のとおり可決されました。

「マイナンバー」って?

マイナンバー(個人番号)とは、国民1人ひとりが持つ12桁の番号のことです。今後、税や年金、雇用保険などの行政手続きに使用します。
マイナンバーカード(個人番号カード)は、公的な身分証明書として利用できます。これは個人で申請して取得するもので、送られてくる通知カードとは別のものです。
欧米ではすでに多くの国が利用しており、最大のメリットは行政の効率化ですが、情報の漏洩やプライバシーの侵害を心配する声もあります。

○議会を傍聴しませんか○
 本会議および委員会は公開を原則としており、傍聴ができます。実際に傍聴されれば、紙面では伝えることのできない会議や議員の生の活動がよくわかると思います。



高梁城南高等学校× 高梁市議会 コラボレート第8弾



本年度、最後の表紙は、高梁城南高等学校デザイン科2年生の野村菜々子さんの作品です。
 冬にさしかかった内山下の様子を描いて下さいました。微かに雪をかぶった遠くの山々に、瓦葺きの日本家屋と石垣。格子戸に向かって伸びる朱色の欄干がとても印象的です。
 「将来についてはまだ決めていないけれど、今年はもっとたくさん絵を描きたい」と意欲満々の野村さん。
 描くことを重ねながら、徐々にまだ描かぬ将来に向かって歩みを進めてほしいと思うのでした。



気になるスポット

The spot
of
Takahashi

津川町八川に「実相寺」という集落があります。ここは古くから仏教の聖地だった場所で、聖徳太子（574年～622年）が開基と伝えられる法相宗の木堂を中心に七か坊があったといわれています。今でもここには三か寺があり、共有の「本堂」に本尊の阿弥陀如来、向かって右側に不動明王、左側に毘沙門天の立派な三尊仏（室町時代末期の作で市重要文化財）が祭られています。本堂では、地域の人々が「なんまいだ、なんまいだ」と念仏を唱え大数珠を回す「おかんぎ」の行事が行われています。



編集後記

今年の干支は丙申（ひのえさる）です。前回の丙申は1956年で、神武景気と言われる時期でした。経済白書には「もはや戦後ではない」と記載され、この年に日本が国際連合に加盟しました。丙申には形が明らかになってきて、実が固まっていくという意味があるそうですが、どのように完熟させるのかが求められる年ではないでしょうか。（宮田 好夫）

編集
議会広報調査特別委員会

委員長 宮田 公人
 副委員長 宮田 好夫
 委員 森田 一夫
 委員 大森 誠生
 委員 石田 芳生
 委員 石井 美

☆ご意見はこちらまで

高梁市議会事務局

高梁市松原通2043

☎0866-21-0276